



第27回全国水産・海洋高等学校生徒研究発表大会全国大会

4. 「階上アブラメ」のブランド化推進事業の概要 (今後の事業計画)

事業の概要は(1)消費拡大、(2)流通促進、(3)観光資源開発、(4)資源管理型漁業推進に分けられる。

(1) 消費拡大

① 成分分析

素材としてのアブラメのおいしさを調査するため、アブラメの旨み成分の比較分析をする。サイズ別、時期別、しめ方による違いを比較分析し、その結果をもとにアブラメの活用方法を研究する。

② 商品開発

アブラメ料理や加工品など、食に関する普及コンテンツを開発し、商品化する。レストランメニューとしては階上アブラメ〇〇御膳、加工品としてはお土産品などを開発する。

③ PR活動

各種イベントや広報媒体などを活用し、アブラメ料理や加工品、ブランド化の取組

上町アイナメブランド化への道々さらなる高みへ」という研究テーマで発表した。これまでの経緯と実績を的確に発表でき、奨励賞を頂いた。生徒はあらゆる場面での発表やさまざまな連携を通して自己有用感が増し、個々の成長につながったと思う。これまで本校においては共通のテーマに基

をPRする。商品開発の試食会開催やPR用のぼり・ティッシュデザイン等作成などを実施する。

(2) 流通促進

① 無水輸送試験

鮮度を保ちつつ輸送費も低減できる輸送方法を研究し、実用化および販路拡大につなげる。本校においてはヒラメ無水輸送に関する実績がある。

② 統一規格での販売

成分分析の結果などを参考に差別化・付加価値化し、販売するアブラメに一定の出荷要件を設ける。

(3) 観光資源開発

① アブラメ釣り大会

アブラメ釣り大会に町内外から多くの人を誘客し、階上アブラメの知名度向上を図る。階上町は遊漁が盛んである。

② アブラメまつり

アブラメに特化したイベントを新たに企画・開催する。これまでも町のイベントである「どんこ祭り」「いちご煮まつり」などにおいてもアブラメをPRしてきている

づいて各科が連携して研究活動を行ったことはなかった。連携して共通の目標に向かって取り組み、全国大会でも発表したことにより、学校全体にも連帯感が生まれたような気がする。

地域全体にもこの連帯感を波及させることにより、地域活力の向上につなげていきたい。生徒が地域と深く関わりを持ち、地域住民と対話し、地域のために活動することにより、より地域活力の向上へ貢献することとなる。生徒の地域理解も進み、地元への定着やUターンが促進されることも考えられる。

6. 今後の展開

昨年度は、官学連携の実現により、ブランド化へ向けての具体的なビジョンが見えてきた。今後は専門家や地域住民への取材やディスカッション等によるさらなる情報収集も必要である。また、農林水産省の地理的表示保護制度取得(GIマーク表示)等の具体的なブランド化に向けた取組も検討中である(近隣ではGIマーク表示認証

が、アブラメに特化したイベントを開催することで「町の魚アブラメ」を周知させることができる。

(4) 資源管理型漁業推進

① 種苗放流と資源管理の検討

安定的で持続的なアブラメの生産を目的とし、アブラメの稚魚放流や資源管理を継続して行う。資源調査により資源管理計画を策定する。漁業者と遊漁者にも資源管理計画を周知徹底する。

② 漁獲法探求

アブラメ生産を効率的で効果的にする漁獲方法を研究する。これまでの漁獲方法を検証し、生徒のアイデアを生かした研究を推進する。制限体長以下の魚を漁獲しない漁具の製作も検討していきたい。

5. 官学連携による成果

平成30年12月14日、八戸市において「第27回全国水産・海洋高等学校生徒研究発表大会」が開催された。全国から選ばれた8チームが八戸市公会堂にて発表を行い、本校も参加した。本校の海洋生産科は「階

を受けているブランドとして「小川原湖産大和しじみ」「岩手野田村荒海ホタテ」がある。

7. 新たな視点

資源管理の問題は今後の地域を盛り上げていくためにも解決していかなければならない大切な視点である。階上町は遊漁船業が盛んなところとして知られているが、その反面、遊漁者によって漁獲されるアブラメの数量は、漁業者にとって無視できないほど膨大な数量であるといわれている。また、他の魚種を狙った漁法であっても、親魚サイズになる前のアブラメを大量に漁獲してしまう場合や産卵期の親魚を漁獲する場合があります。資源の枯渇が懸念されている。これらの課題を今後の資源管理型漁業に向けて本校と連携して解決できれば、漁業振興につながると思われる。

今後、「旨い階上町のアブラメ」が、地域活性化や地域創生のみならず地域の活力を創り出す人材の育成につながることを期待したい。